

国語(中三)(古典) * 解答・解説

使用教材

「夏草」「おくの細道」から (光村図書)

P146

ゝ

P147



川越市マスコットキャラクター

(1) 旅人

(2) 行きかふ年もまた旅人なり



「もまた」に着目すると、過客と旅人が同じ意味だと捉えられます。

この他にも、対句的に表現されている箇所はいくつもあります。全て見つけ

☆ (3) ① イ

② 五言律詩

③ 三ヶ月



古人とは、人生の大半を旅に過ごしながら詩歌の道を究めた人々のことをいいます。作者にとって憧れの存在でした。

烽火とは戦いを知らせるのろしのことです。杜甫は故郷、長安で戦いに巻き込まれ、その後、長安から逃げていきます。

また、一句が五文字のものを五言、七文字なら七言と表します。春望のように八句からなる漢詩を律詩、四句なら絶句といえます。覚えていましたか。

(4) 松尾芭蕉



「予」は「わたし」という意味です。つまり、作者の松尾芭蕉を指します。

(5) ・股引の破れを繕った。

・道中笠のひもを付け替えた。

・三里（膝頭の下の部分）に灸をすえた。



三里とは、膝頭の下部分のくぼんだところで、足を丈夫にするつぼです。